

# 事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 甲州市教育委員会
2. 研究主題 : 小規模校を存続させる場合の教育活動の高度化
3. 研究タイトル : 先進的ICT環境が創り出す、小規模校発の21世紀型地域創生事業
4. 研究課題 :
  - ・先進的ICT環境による、個に応じた学力向上への授業開発
  - ・先進的ICT環境による、21世紀型能力の育成を視野に入れた小規模校発の町おこしプロジェクト（以下「新たなふるさと学習」と表記）
  - ・先進的ICT環境が創る、学校連携ネットワーク構築及び交流事業の計画・実施
  - ・先進的ICT環境が創る、複数学校合同の同期型CSCL（Computer Supported Collaborative Learning）授業の開発

## 5. 事業の実績

### (1) 調査研究のねらい

調査研究に参画する大藤小学校、神金小学校、玉宮小学校の3校は、近年、児童数の減少が著しく、学校統廃合検討の話題にはあがるものの、地域的、歴史的な要因もあり、現状では難しい状況にある。そこで、本事業では、児童減少の状況に歯止めをかける対応策として、また、小規模校だからこその特色や環境を生かした教育を行うため、先進的ICT環境の設置をすることにより、地域活性化の取り組み、学校連携ネットワークの構築及び交流、複数学校合同の同期型CSCL授業の開発など、実現可能であろう状況に焦点を当てた取り組みの実現を図るとともに、それを地域に積極的に発信する。

### (2) 調査研究の実施状況（平成27年度）

10月	事業計画及び研究内容の確認 ワーキンググループ会議
11月	学校説明会 打合せ会議 同期型CSCL授業の学習並びに活用場面の情報収集、及び検討 ICTネットワークを活用した交流学習の情報収集、及び検討 新たなふるさと学習に向けての地域教材の情報収集、及び検討 教員同士の協働ネットワークの情報収集、及び検討
12月	同期型CSCL授業の学習並びに活用場面の検討、及び取り組み案作成 ICTをベースとしたネットワークを活用した交流学習の検討、及び取り組み案作成 教員同士の協働ネットワークの構築に向けての検討、及び取り組み案作成 新たなふるさと学習に向けての地域教材の検討、及び取り組み案作成 21世紀型地域創生推進会議 市議会において補正予算案可決、消耗品等発注
1月	消耗品等の設定及び各校への配布 タブレット端末のリテラシー育成のための授業実践 同期型CSCL授業の実践 先進校公開視察（竜王小学校） ワーキンググループ会議 打合せ会議 学校間ネットワーク構築作業

2月	教職員向けICT及び同期型CSCL授業の研修会(講師招聘) ワーキンググループ会議 タブレット端末のリテラシー育成のための授業実践 同期型CSCL授業の実践 同期型CSCL授業の提案(情報教育研究会で実践授業) 授業参観を活用して同期型CSCL授業・ICT活用授業の地域へ発信 学校間ネットワークを活用しての3校交流授業の実践、及びメディア(TV)を活用しての地域への発信 保護者向けのタブレット講習会(神金小)
3月	ワーキンググループ会議 同期型CSCL授業及びICTネットワークを活用した交流学习の計画の立案 新たなふるさと学習に計画立案 市の広報を活用しての地域への発信 21世紀型地域創生推進会議

## 6. 事業の成果

### (1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

<ul style="list-style-type: none"> <li>授業モデルに関わるタブレットの配置数については、人数の少ないことをメリットと捉え、初年度は、計画通り、各校4・5・6年生の児童数の3人に1台を基準としてタブレットを整備することができた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットを用いた授業モデルについては、アプリなどを用いた基礎的基本的な学習内容の定着に向けた反復練習や体験型学習のためのアプリの設定をすべてのタブレットに行い活用するとともに、来年度に向けての計画を立案することができた。</li> <li>協働学習場面における同期型先進的学習に向けては、同期型CSCL授業を支えるツールである「edutabu」を作成し各校に3台ずつ整備をおこない活用するとともに、学力向上へと繋がる授業等のモデルを検討することができた。また、先進校の視察と研修などをおこなうことができた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統芸能や豊かな自然資源などの地域資源を活かした郷土学習を、新たなソースとしてタブレットPCを用いることにより、一人ひとりがより主体的に学びに関わるとともに、互いに情報を発信共有し、より広がりのある学習にする「新たなふるさと学習」については、各校で教材の掘り起こしと、来年度に向けての学習カリキュラムの検討をおこなうことができた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>大学・行政・学校の協働による同期型CSCL授業(edutab事業)の研究開発により、官学連携事業モデルの提示、タブレットPCの使用という新たな同期型CSCL授業モデルの開発については、大学・行政・学校の協働研究体制の構築をするとともに、学校間ネットワークモデルを構築することができた。また、学校間遠隔授業モデルの検討をおこなうことができた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>「21世紀型地域創生推進会議」を組織し、本事業の内容や方向性について意見を求めるとともに、学識経験者から先進例の情報提供や指導助言を得ることができた。また、状況に応じて、必要に応じた枠組みでワーキンググループ会議や打合せ会議を組織し実施することができた。</li> </ul>

### (2) 成果物等

<ul style="list-style-type: none"> <li>文部科学省委託「少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業」平成27年度事業報告書</li> </ul>
---

### (3) 今後の取組予定

<ol style="list-style-type: none"> <li>①同期型CSCL授業のモデルを作成、実施、改善を図る。また、実施の効果を全国学力・学習状況調査及び県学力把握調査の結果などより判断し、成果報告にまとめると共に、研究授業などによって成果を公開報告する。(県教委並びに外部有識者、全県の教諭)。</li> <li>②協働学習や成果発表体験などのICTをベースとした交流事業・学習を実践し、その成果と課題をまとめるとともに、授業モデルの開発を行う。</li> <li>③タブレットPCを用いた新たなふるさと学習の計画、実施をし、新たなふるさと学習の成果と課題について分析検討する。</li> </ol>
--